



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 ぐんま

連携だより

地域医療機能推進機構 群馬中央病院

JCHO Japan Community Health care Organization

海外内視鏡指導

～あふれる外来・マンモス病院のなか、最新の診断・治療を指導する～ … 04-07

あいさつ
地域連携アドバイザー

..... 03

リレー・フォー・ライフ・ジャパン
2015 ぐんま

..... 08

第5回 前橋地区医療連携実務者の会
(平成27年度 総会)

編集後記

..... 09



4つの心

群馬中央病院の理念

人権尊重の心 | 人間愛の心 | 奉仕の心 | 向上心

群馬中央病院の基本方針

人権の尊重と人間愛を基本とした医療・介護を行い、
地域の方々の健康と福祉の増進に寄与する。

地域医療・地域包括ケア・介護の連携の要として、
超高齢化社会における多様なニーズに応え、
安全・安心・信頼を要とした医療と介護を提供する。

地域の医療・福祉機関との連携を密にし、
地域医療における中核病院としての使命と役割を担う。

透明性が高く自主的な運営のもと、
常に医療・介護水準の向上に努める。



あいさつ

■ 地域医療連携センター
地域連携アドバイザー
草間 敏子



4月から、地域連携アドバイザーとして退院調整を担当しております。

当院のミッションである地域医療と地域包括ケアを実践するために、日々地域医療連携センターのスタッフたちと走りまわっています。

現在、私たちが取り組む問題は山積しています。老々介護・認知症患者の増大・独居・核家族など数えきれないほどです。私たちは悩み、問題解決策を見出すために院内外が多職種の方々と話し合い、相談して知恵を頂きながら仕事をしています。

院外からも参加していただく『地域包括ケア研究会』『認知症研修会』『4病院症例検討会』院内でも多職種カンファレンスを病棟ごとに行い、情報交換を行いながら退院調整を行っています。

連携の基本である『お互いの顔の見える関係づくり』そして『相手の腕がわかり腹がわかる関係づくり』をしていきたいと思っています。いつもお世話になっている診療所の先生方、たくさんのケアマネジャー、施設の方、訪問看護師、行政の方々などとのつながりを大事にし、これからも地域の皆様のご協力のもと、患者さんにとってより良い退院調整を行っていききたいと思っています。

海外内視鏡指導

～あふれる外来・マンモス病院のなか、
最新の診断・治療を指導する～

こんにちは、早期がん特別発見隊・隊長の桐山真典です。皆さんは、海外の医療現場をご覧になったことはありますか？留学や視察で見学したことがあるかもしれませんね。でも一般には、海外旅行中に病気にならない限り、あまり海外の病院に行く機会は少ないですね。

実は今回私は、中国から招聘され内視鏡指導を行う機会を得ました。2014年の12月6日から約1週間にわたり、第一回目の内視鏡指導を行ってきました。以前にもイギリス・シンガポール・コロンビア・チリ等々でも内視鏡治療や指導をしたことがありますが、やはり中国、なかなか面白い事が起こりますので、その一部を寄稿したいと思います。

今回、私は中国東北部の吉林省、および北京の病院合計3箇所を回り、内視鏡の検査指導、観察や診断方法、治療法など、時間の許す限り、現地の先生に指導を行ってきました。中国というと、どのような印象でしょうか。メディアで取り上げられる外交の問題、最近では工場の爆発事故などよくわからないといった印象もあると思います。私も正直指導にいくまでは、マスコミ情報やネット情報で先入観の塊になっていたところです。

まずは吉林大學附属病院の一つである中日ユニオン（日本



(写真1)

では当てはまる漢字がありません）病院です（写真1）。北京から飛行機で長春まで、到着後すぐ病院視察です。

内視鏡室はご覧のように、モニターもフル装備、検査機器も極めて充実しています（写真2）。日本への見学者も多く、以前私がいた国立がんセンター中央病院のこともよく知っており、そのシステムを参考にしたと話していました。内視鏡の本数もすごいです。干し柿を吊るすようにざっと置いてあります（写真3）。検査後の洗浄室（写真4）。いか



(写真2)



(写真3)



(写真4)

がですか。膨大な検査をまさしく回すための洗浄（担当の技師にとっては戦場）室です。

さて講演です。私は胃がん・大腸がんの早期発見と内視鏡診断・治療についての講演を行いました。最初に御挨拶。「我是桐山（ウーシートンシャン）：私は桐山です。」…会場はほぼノーリアクション。でもめげずに、「ニーハオ！」…会場から拍手と大きな歓声。中国の皆さんにウケるツボはなかなか難しいです。

中国では早期がん発見率がまだまだ低く、その診断能力も十分ではありません。論文や書籍で勉強はしていても、実際の臨床現場でどうすればよいか具体例がわからないのです。がんが見つかったとしても内視鏡で切除できることは少なく、胃や大腸・直腸を切らずに完治することが



(写真5)



(写真6)



難しいのです。そのため、みなさん一所懸命で、こことばかり質問もたくさんきます。教えがいがありますね (写真5、6)。講演が終わると、教授始めスタッフ一同で宴会を開いていただきました (写真7)。飲み物は、この透明なお酒・白酒 (ばいじゅ) です (写真8)。アルコール度数 53 度、ほぼ消毒液です。大きな宴会ではこのお酒をボトルが空になるまで飲むのがしきたりです。「郷にいればなんとか」で私も付き合いましたが、次から次へと中国の先生が挨拶と質問とそして乾杯に来てくれます。途中からはもう完全にふらふらでした。後から教えていただきましたが、先ほどのグラスはワイン用であり、白酒の場合にはぐっと小さいおちょこのようなもので飲むはずなんだそうです。



(写真8)



(写真9)

次に長春から車で 2 時間くらい雪の中を走ったでしょうか。吉林市です。ここは霧氷が有名です。霧氷とは冬の早朝に、川から立ちのぼる水分で川辺の木々が幹から枝

の先まで凍り、その幻想的な情景のため有名となったそうです (写真9)。ただ難点がひとつ。朝早起きして、見に行きましたが、とにかく寒い。マイナス 17 度。寒いのを乗り越して「痛い」と感じるくらいでした。観光どころではありません。ほか誰も見に来ていませんでした。

この川の上流に中国国内でも最大級のダムがあります (写真10)。国の要人しか入れないか



(写真10)

なり警備の厳しい場所でしたが、招待してくれた消化器部長の王先生とダム施設長が懇意とあって特別に案内してもらいました。かつて日本も建設に関わったダムです。習金平国家主席の写真もありました。



(写真11)



(写真12)



(写真13)

この王先生がいらっしゃる吉林人民病院が検査・治療・講演の場所です (写真11)。地方都市の中核病院ですが、やはり大きい。病床数 1500 床、「中国では普通だよ」と言われました。この建物全体が外科病棟です (写真12)、そしてこちらが内科病棟 (写真13)。つまり病棟はフロアごとではありません。建物全体で科が分かれています。

中国の人々は、日本の医療に対し最大級のリスペクトをし

てくれています。このように病院の外から入口、エレベーターホールの前、その出口、検査受付へと、笑顔で看護師さんが出迎えてくれます(写真14、15)。



(写真14)



(写真15)

さて実際の検査になります。検査室は広めといっても制限があるので、見学者は一部しか入れません(写真16、17)。実際に症状のある患者さんで、診断がついていない患者の検査を始めます。一部の先生は英語が通じますが、ほとんど中国語です。今回麻先生が通訳をしてくれました。慢性胃炎とそれに伴うびらん、および過形成ポリープの診断でした。



(写真16)

以前に撮影された画像を見ながら、今回の写真となにが違うのか、診断の根拠から見落とさない写真の撮り方などをレクチャーします(写真18)。みんな一生懸命です。

次に中国の先生の検査をみながら、検査方法の指導です。彼は内陸のモンゴルに近い地域の出身でした(写真19)。なんとなく朝青龍や白鵬に似て雰囲気あり



(写真17)

ますよね。

続いて大腸内視鏡検査もします。S状結腸～直腸S状部に位置する大きな腫瘍でした。この患者さんは病変が見つかって直腸を切除する手術予定となっていました、私が中国に来ることになったため本日検査を受けることになったとのことでした(写真20)。病変は大きくて、3-4cm がありました。診断の難しい平坦隆起の腫瘍です。ひだを乗り越えて大きく広がる腫瘍で内視鏡切除しにくい病変です。おそらく日



(写真18)



(写真19)

本でも施設によっては内視鏡ではとることができず手術になってしまうかもしれません。

中国は前処置があまりよくありません。「診断する時にはここまで丁寧に洗うんだぞ!」と見せながら、診断していきます。日本とは勝手が違いますが、看護婦さんは結構慣れていて、なんとなく必要な薬剤・処置具もすぐ理解してくれます。

内視鏡診断で治療可能と判断しました。



(写真20)

また当初の話では、私にお願いされていたのは観察までで、治療はしないということでしたが、そこは中国、状況は刻々と変わります。言葉はわかりませんが、患者さんの「なんとか今日治療してくれないか」という懇願の表情、「できれば日本の先生に切除してもらおう」という担当医の目線、見学・勉強に来ている医師の視線やひしひしと伝わってくる期待感のため、私の医師としての仁の心が動かされます。

「じゃあ処置具をください。」この一言で、まわりの人たちの目から「日本の治療を直接見られる」というワクワクがあふれそうになっています。ここには日本人は私だけですから、僕のほうも日本を代表してその医療技術の高さを理解してほしいと思ってさらに気合いが入ります。

ひとつ私の心配事は切除した翌日からは、私が北京に移動してしまうということ。折角大きな病変を切除しても、その後に出血などした場合に処置ができる医師がいなくて患者さんに負担がかかります。慣れない施設・道具・言葉も不十分ですが、周りのスタッフにまずこれをして、次にこれを使ってあれをして、その後これをする、という手順を全部説明し、切除したところは完全に縫合することを決定。そして治療開始。

診断通り内視鏡で、ひとかたまりにとることができました、多くの先生から、素晴らしいとコメントがもらえました。さらにここから内視鏡的な縫合処置です。優秀な看護師さんが手際よく介助してくれます。切除したあとの大きな粘膜欠損を完全に縫縮し、出血の心配が無いようにします。この処置も聴衆の先生から「おー」と言われるほど評価が高かったです。何よりも患者さんが一番喜んでくれました。もともとは直腸を切除の手術と言われていたそうですが、今日無事取れましたからね。切除後には患者さんと記念撮影。日本ではあまり治療後すぐに患者さんと記念撮影はしませんがお国柄でしょうか。

後日結果を聞きましたが、出血することなく無事退院され、病理結果も治癒切除で手術なくて済んだとのことでした。中国でも、切らずにがんを治すことができました。

治療の後は、大ホールで講演です（写真 21、22、23）。



(写真21)



(写真22)

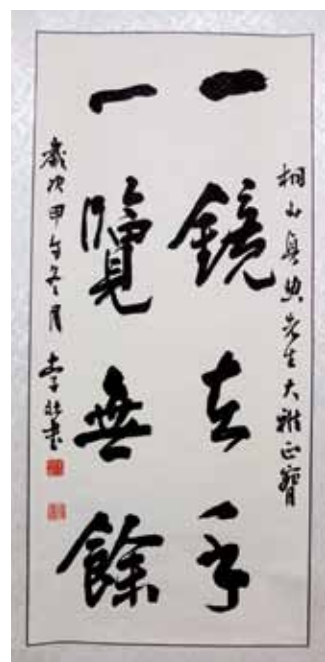


(写真23)

吉林省保険局トップのあいさつで始まります。今回の講演は現地中国のTVでも放送されました。この日中内視鏡交流は大変有意義であったようです。

講演の感謝を込めて、王先生のお知り合いの書家の書を頂きました。「鏡（内視鏡）一つで、悪（がん）を退治する力を持つ人」という意味のようです（写真 24）。

この患者さんや講演を聞いた中国の先生たちの口コミで、今では日本の私のところまで内視鏡検査・治療を受けにくる人も増えました。私の講演や内視鏡検査などが世



(写真24)

界に広まり、病変があってもおなかを切らずに治せ、皆が健康に暮らせる社会がますます広がってほしいです。また、今回多くの方にサポート頂きました。この場を借りて心から御礼申し上げます。

北京編や第2回目の上海ほかでの内視鏡指導は次項で綴りたいと思います。 （文責 外科 桐山真典）



リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2015 ぐんま

日時

10/17(土) - 10/18(日)
12:00 START → 12:00 FINISH

会場

群馬県総合スポーツセンター
ふれあいグラウンド (前橋関根町800)

リレー・フォー・ライフ (命のリレー) は、がんに立ち向かう方々の勇気を称え、がん患者さんとその家族、友人、支援者達とともに地域一丸となってがん征圧を目指すチャリティー活動です。

当日は、天候にも恵まれ、今回で群馬県では、3回目の開催となりました。のべ7,000人もの参加者で会場は年々盛り上がっています。当院からも管理者や医師含め、ほぼ全職種・部署から100名を超すスタッフが交代で24時間完歩しました。

県内各地区の多くの病院から参加があり、貴重な情報交換の場になりました。院内参加者チームも、交代で夜通し歩き、がんへの理解・あきらめない勇気・患者さんの思い・生きる希望などさまざまな思いを語り合うことができました。サバイバー (がん経験者) の方だけではなく、イベントに参加したすべての人ががんという病気を考えるきっかけになったと思います。今後もがんにまけない地域づくりをすすめていきます。



第5回 前橋地区医療連携実務者の会 (平成27年度総会)を開催しました。

日時 2015年 9 / 29 (火) 18:30～

場所 前橋商工会議所 リリーの間ほか

前橋地区医療連携実務者の会は、前橋市内の病院間の連携を強化するために、連携実務担当者間の意見交換と情報共有の場として活動することを目的としています。今回は、5回目の総会にあたり市内19病院の医療連携実務者（医師・看護師・MSW・事務等）の他、県外病院の医療連携に携わる多職種の方にご参加いただき、27年度の役員と事業内容について承認を得ました。

当日は、特別講演として、姫路市医師会、地域医療連携室長の成定啓子先生をお招きし、『事例から学ぶ地域連携室の役割 ～姫路市医師会 連携室の現状～』と題して講演いただきました。医師会に地域医療連携室を設置することによってできる、地域の在宅医療への推進活動のお話や、地域包括ケアシステ

ム構築のためのさまざまな試みなどお話しいただきました。総会後の意見交換会では、成定先生はじめ、県外の実務者の方、医師会在宅医療委員会の先生方等、市内病院間の枠を大きくはずして忌憚のない意見交換をすることができました。



編集後記

今号の表紙写真、リレー・フォー・ライフの24時間イベントに今年も参加しました。天候にめぐまれ昼間は暑いくらいでしたが、日が陰るとやはり気温はさがり、特に日の出までの数時間はとっても寒かった (>_<) 日中行われたにぎやかで楽しいイベントと、夜の静寂で美しい会場のギャップを感じながら一緒にあるいた仲間とは、いつも以上に親近感を感じ、たくさん語りあうことができました。

外来診療担当医一覧表

平成27年11月1日現在

科		曜	月	火	水	木	金
内 科	午前		齋藤(総合) 北原 羽鳥 須賀	奥(総合) 羽鳥 阿久澤 大山	今井(総合) 北原 田嶋 長谷川	北原(総合) 今井 須賀 田嶋(糖尿病)	佐藤(総合) 阿久澤 奥 大山
	午後 (予約)		今井(循環器) 田嶋(糖尿病) 山口(呼吸器)	北原(循環器) 須賀(循環器) 蜂須(呼吸器) 土岐(糖尿病)	今井(糖尿病)	大山(循環器) 阿久澤(循環器) 奥(循環器) 解良(呼吸器)	北原(循環器) 羽鳥(循環器) 田嶋(糖尿病) 解良(呼吸器)
和漢診療科	午前		小暮 山本	小暮 原田	小暮	小暮 山本	小暮
	午後		小暮	—	小暮(リウマチ)	小暮	—
神経内科	午前		大沢	—	—	—	大沢
	午後		金子	大沢	—	平柳	—
消化器内科	午前		《肝臓》湯浅(第2・4週) 堀内(第1・3・5週)	岸	堀内	山田(大腸)	湯浅
小児科	午前		田代 【予】須永(神経発達)	須永	田代 水野 【予】須永・村松(神経発達)	田代 須永 【予】水野(アレルギー)	須永 【予】水野(アレルギー) 【予】鈴木(神経発達)
	午後 (予約)		須永(神経発達) 水野(アレルギー) 武井(専門)	須永(神経発達) 小笠原(専門) 内田(乳児健診) 群大(乳児健診)	田代(循環器) 須永(神経発達) 高木(腎臓) 和田(予防注射) 月田(予防注射)	田代(循環器)1・2・4・5週 篠原(循環器3週) 小笠原(腎臓) 内田(専門)	須永(神経発達) 水野(アレルギー) 武井(腎臓) 牧岡(神経発達)
外 科	午前		内藤 深澤 佐野 矢島(乳腺・甲状腺)	谷 佐野 桐山(ESD内視鏡治療)	斎藤 山内 小峯	内藤 深澤 山内 福地	谷 斎藤 小峯 桐山(ESD内視鏡治療)
	午後		藤井(乳腺・甲状腺) 【紹介のみ】	—	—	茂木(呼吸器)	—
整形外科	午前		寺内(膝) 堤(脊椎) 中川(脊椎) 中島(脊椎) 【紹介のみ】	寺内(膝) 堤(脊椎) 畑山(膝) 大島	中川(脊椎) 畑山(膝) 大島	堤(脊椎) 中川(脊椎) 中島(脊椎)	寺内(膝) 畑山(膝) 中島(脊椎) 大島 【紹介のみ】
	※膝・脊椎の記載について…整形外科は一般外来として診療を行っておりますが、紹介患者さまについては殆どの方が専門的治療が必要な状態と考えられます。混乱を避けるために専門分野の記載をしております。						
産婦人科	午前		伊藤 勝俣(妊婦健診) 金井	伊藤(8:30～10:00) 勝俣 安部(妊婦健診)	伊藤(妊婦健診) 太田 平石	伊藤(不妊不育) 太田(妊婦健診) 平石	伊藤 安部 平石(妊婦健診)
	午後 (予約)		太田(手術後・検査) 平石(一般外来)	金井(一般外来) 手術	勝俣(産後外来) 安部(一般外来)	伊藤(手術組) 篠崎(ハイリスク) 検査	太田(手術後・検査) 勝俣(妊婦健診)
眼 科	午前		前嶋	前嶋 花田	前嶋 花田	前嶋	前嶋
耳鼻咽喉科	午前		内山 群大	内山	内山	内山【紹介のみ】	内山
	午後		【予】内山	【予】内山(嚥下外来) 【予】竹越	【予】内山 【予】塚田(隔週)	—	【予】内山(嚥下外来)
麻酔科	午前		大川	高橋	富岡	原	大川
皮膚科	午前		—	田村	—	—	—
	午後		—	—	—	—	群大
泌尿器科	午前		—	—	鈴木(第2・4週)	—	—
	午後		—	—	—	—	—
歯 科	午前		平林	平林	平林	平林	平林
	午後		—	—	—	—	—

※神経内科の午前午後および内科・小児科・産婦人科・耳鼻咽喉科の午後は予約制です。
※整形外科の月・金曜日の初診受付については、紹介状持参患者のみの外来となっております。

※耳鼻咽喉科の木曜日の午前中は、紹介状持参患者のみの外来となっております。
※外科の月曜日の午後（乳腺・甲状腺）は紹介状持参患者のみの外来となっております。

診察・検査の予約お問い合わせは地域医療連携室へ

受付時間
8:30～18:00

TEL 027-223-1373 [直通]
FAX 027-223-1374 [直通]

独立行政法人 地域医療機能推進機構



群馬中央病院

〒371-0025 前橋市紅雲町1丁目7番地13号 TEL 027-221-8165 FAX 027-224-1415

